

# 新トップ登場

## チャレンジの時

穀粉最大手・日の本穀粉の代表取締役社長

に6月15日、就任した黒田昇氏。年齢差20歳のいとこに当たる黒田寛前社長（現会長）から指名を受けた。大学卒業後入社した、父が経営するコメ卸の大阪米穀と、その後傘下に入った伊丹産業時代も含めて30年以上、主食

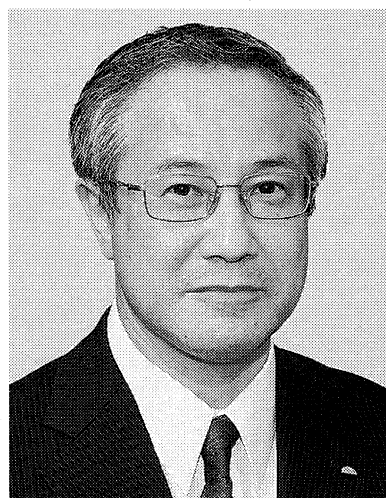
米の世界で生きてきい制約はあるが、粉はた。それが今回、一転どのようにも化けることと同じコメでも米粉とができ、無限の可能性の世界に入った。

「私にとつて米粉は未開

# 無限の可能性秘める米粉

## 日本の本穀粉 黒田 昇社長

の大地。和菓子原料に性秘めていいる」と、業界に夢や希望を感じていいる。和菓子原料中心の穀粉最大手の同社にとつて、コロナ禍による土産物需要の低迷や、だが、環境は良くな



営業スタップに同行し、勉強とあいさつを兼ね全国の得意先を可

な限り訪ねている。こうして足を運んでこそ出合うのが、和洋折衷の商品開発や、従来当たり前のように販売してきた、ササの葉や塩漬けの桜など国産

守ることにもなる。そこで生かされるのが、創業以来130年間培ってきた「和菓子のことなら何でも知っている」同社のノウハウや研究開発力に加え、和菓子原材料や資材を展開する館山、中間流通からリーテールまでを担う大阪食糧卸といった、グループ企業の存在

の業界で築いてきた人脈」だ。特に全国の産地とのパイプは太い。黒田寛前社長の目にとまった、米穀業界の誰もが知る明るい人柄で産地から消費地までを巻き込み、売りにつながる仕掛けが急がれる。「環境が厳しい今こそ、チャレンジの時」ととらえている。

茶会に代表されるイベント中止は、明らかに逆風だ。

和菓子原料に対する、予想もなかった新たなニーズだ。ビジネスチャンスにつながるは「当社が今、やらないと伝説や産業がすたれる」という気概もある。「財産は、長年コメ

黒田昇氏（くらだのぼる）1965年2月14日兵庫県生まれ。87年宮城教育大学卒業。同年大阪米穀入社。01年伊丹産業入社、20年12月退社。21年1月日の本穀粉入社（佐藤路登世）